農地の見通しと確保
農地の見通しと確保

○ 平成37年における農地面積の見込み
○ これまでのすう勢を踏まえ、荒廃農地の発生抑制・再生等の効果を織り込んで、農地面積の見込みを推計

平成26年現在の農地面積
452万ha

<table>
<thead>
<tr>
<th>すう勢</th>
<th>平成37年までの農地の増減</th>
<th>施策効果</th>
<th>平成37年までの農地の増減</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>農地の転用</td>
<td>△11万ha</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>荒廃農地の発生</td>
<td>△21万ha</td>
<td>荒廃農地の発生抑制</td>
<td>+14万ha</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>荒廃農地の再生</td>
<td>+5万ha</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>東日本大震災からの復旧</td>
<td>+1万ha</td>
</tr>
</tbody>
</table>

これまでのすう勢が
今後も継続した場合の420万ha（すう勢）
平成37年時点の農地面積

平成37年時点で確保される農地面積
440万ha
農地面積の推移と見通し

資料：平成10年から26年の農地面積は「耕地及び作付面積統計」による。

農地面積の見通し（平成22年基本計画）と推移

○ 農地面積については、平成25年は454万haとなっており、年平均約1.4万haの減少抑制効果は見られるものの、緩やかな減少傾向が継続し、平成32年に食料自給率50%を達成するための基礎とした461万haからは徐々に乖離してきている状況。

○ 農地面積の推移

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>H21 (基準)</th>
<th>H22</th>
<th>H23</th>
<th>H24</th>
<th>H25</th>
<th>H32 (見通し)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>農地面積(万ha)</td>
<td>460.9</td>
<td>459.3</td>
<td>456.1</td>
<td>454.9</td>
<td>453.7</td>
<td>461</td>
</tr>
<tr>
<td>対前年減少率(%)</td>
<td>ー</td>
<td>▲0.3</td>
<td>▲0.7</td>
<td>▲0.3</td>
<td>▲0.3</td>
<td>▲0.3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※平成23年は東日本大震災等による自然災害で約1.7万haかい阪
資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

○ 農地面積の見通し（平成22年基本計画）と現状

平成22年度末現在の農地面積：461万ha

すう勢：毎年3.2万ha減少
現状：毎年約1.8万ha減少（4年平均）
毎年約1.4万haの抑制効果（4年平均）